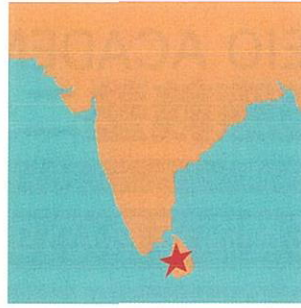


光り輝く島

北緯六度五十四分、東経七十九度五十三分。インド半島の南のインド洋に、涙の形をして浮かぶ「光り輝く島」。それが、スリランカである。



北海道をやや小さくした島の西海岸の中央よりやや南にスリランカ最大の都市コロンボがある。正式国名は、ス

市の中心タウンホール



校舎全景



●スリランカ● **コロンボ日本人学校**

リランカ民主社会共和国。首都は、世界で最も名前の長いと言われているスリジャヤワルダナプラコッテ。気候は乾季と雨季があるが、一日の最高気温は一年を通して三十度前後とあまり変化がない。しかし最近地球温暖化のせい、一日中雨が降り続くような天候が多くなってきている。

現在の教育環境

現在、コロンボに住む在留邦人の子どもも多くは日本人学校に通学している。しかし、中学卒業後も海外で生活することを予定している家庭の子どもや、学校から遠距離にあって日本人学校に通学することが困難な子どもは、インターナショナルスクールや現地の学校に通っている。

また日本人学校には幼稚部がないため、就学前の子どもは、現地の幼稚園などに通っている。そして毎週金曜日の放課後に多目的教室を利用して自主サークル「てらこや」を開き、親子でのふれあい活動を行っている。

体験・交流活動を重視した取り組み

ここ二、三年、内戦の激化や爆弾テロ事件の続発により在留邦人数が減り、それに伴って本校でも児童生徒数が激減し、現在は二十六人となっている。そのため、「全校



縄跳びチャンピオン大会

がひとクラス」という気持ちで少人数のよさを生かしつつ学年の枠を超えた活動を大切にした取り組みを行っている。

また、目指す児童生徒の姿として、「やさしい子、たくましい子、自ら考える子」を設定し、ふだんの教育活動や学校行事を行う際には、そうした子どもたちの姿を意識した目標を定め取り組むようにしている。スリランカに在籍することを生かし、国際性を養うために現地理解教育は欠かせない。

小四から中三で行う二泊三日の宿泊学習では、本年度は伝統的なお面の絵つけや海亀の飼育施設の見学と小亀の放流、海亀の産卵の観察、四年前のスマトラ島沖地震による津波被害地域とその復興状況の見学などを行った。津波被害関係では、青年海外協力隊員の活動の様子にも触れ、特に中学生

津波で被災した人たちの自立支援をしている協力隊員たちの活動に触れる



— 宿泊学習 —



海亀の産卵

小学部 国語 参観日で少し緊張気味



児童生徒会によるあいさつ運動



現地校との交流 現地校の子どもたちには難しかった長縄跳び



日本語専攻学生との交流

にとっては将来を考える一つの機会にもなった。小五までは同じ日にコロナ市内を中心に校外学習。そして小六と中二は、隣の国モルジブへ体験ダイビングやシュノーケリングなど自然体験を中心とした修学旅行を行っている。

体力づくりでは、年四回の縄跳び週間を設け、最終日には全校で検定会を行っている。週間中は、休み時間に子どもたちがプラザ(校舎内の運動スペース)に集まり、目指す段級に向けて練習すると同時に検定を受けることもできる。検定表は、入学してから卒業(転退



修学旅行 モルジブ修学旅行でのシュノーケリング

Japanese School in Colombo

URL <http://jscol.com>

児童生徒数 小=16人 中=10人

子どもたちから

こくごでかんじのべんきょう。
ぜんこうたい...くのボウジボール。
キャンディアンダンス みへなたのしいよ(小)

全校体育で中学部ともいっしょにできる所が楽しいです。(中)

1人1人存在感があり、みんなが仲の良い学校です。(中)

めざせ1万ページ」や児童生徒会本部による「あいさつ運動」など子どもたちの自主的な活動も行っている。

今後は、さまざまな学習活動を通してコミュニケーション能力の育成を行っていきたい。

(二〇〇八年十月現在)

また、図書委員会による「読書通帳」が、今年度はフランス人学校との交流会(年二回)を設けている。水泳を通じた交流を計画している。

そのほか現地校との交流会(年二回)を設けている。また、年間を通して週一回の水泳教室も体力の向上に役立っている。

学)するまでずっと同じものが使われている。年に二回、縄跳びチャンピオン大会も開いている。また、年間を通して週一回の水泳教室も体力の向上に役立っている。